

2022年5月12日

各位

会社名 夢 展 望 株 式 会 社
 代表者名 代 表 取 締 役 社 長 堀 孝 子
 (コード: 3185 東証グロース)
 問合せ先 常務執行役員 総務人事部長 足 莉 賢 司
 (TEL. 072-761-9293)

連結業績予想と実績との差異及び 個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

2022年2月10日に公表いたしました、2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の連結業績予想と実績に差異が生じたのでお知らせいたしますとともに、2022年3月期の通期個別業績と前期実績値との差異が生じたので、併せてお知らせいたします。

1. 2022年3月期連結業績予想と実績値との差異について (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上収益	営業利益	税引前利益	親会社の所有者に 帰属する当期利益	基本的1株当 たり当期利益
前回予想(A)	4,988百万円	△21百万円	△98百万円	△100百万円	△7.34
当期実績(B)	4,949百万円	26百万円	△50百万円	△49百万円	△3.61
増減額(B-A)	△39百万円	48百万円	48百万円	51百万円	3.73
増減率(%)	△0.80%	—	—	—	—
(参考)前期連結実績 (2021年3月期)	6,019百万円	△450百万円	△509百万円	△507百万円	△41.46

※本記載数値情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位切捨て小数点第1位まで記載しております。

2. 2022年3月期個別業績と前期実績との差異について (2021年4月1日～2022年3月31日)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	2,737百万円	△334百万円	△506百万円	△41.32
当期実績(B)	1,808百万円	△130百万円	△145百万円	△10.68
増減額(B-A)	△928百万円	203百万円	360百万円	30.64
増減率(%)	△33.9%	—	—	—

※本記載数値情報は、表示単位未満の端数切捨て、増減率の小数点以下第2位切捨て小数点第1位まで記載しております。

3. 差異の理由

(1) 連結業績

当連結会計年度におきましては、2021年4月5日にまん延防止等重点措置、4月25日に第三回の緊急事態宣言が出されて以降、2021年9月30日に緊急事態宣言が全面解除されるまでは、百貨店など多くの商業施設の休業や営業時間短縮、外出自粛により消費マインドが著しく低下しました。又、年明けにはまん延防止等重点措置が再び発令され、3月21日のほぼ期末まで解除されなかったことから、第4四半期でも更にトップラインには悪影響を受けることとなりました。

当社グループでは期初より様々な形で収益構造改革を進めてきた結果、営業損益、当期損益共に期間を通して前年比着実に改善し、特に緊急事態宣言解除後の第3四半期は、大幅に損益改善に貢献いたしました。第4四半期は、年明けにまん延防止等重点措置が再び発令されたこと、又、2月の閑散期に予定していた当社の本店システム入れ替えが3月にずれ込んだことなどから、特にアパレル事業の売上水準は少なからず影響を受け、グループ全体でも第1～第3四半期同様に前年同期比減収となりましたが、引き続き各社ともコスト削減に注力した結果、損益は営業損益・最終損益ともに大幅に改善し、通期でも営業損益はプラスに転じました。

以上の結果、2月に公表いたしました当期業績予想の内、売上収益は更に下回る結果となりましたが、営業損益・税引き前利益・親会社の所有者に帰属する当期利益は何れも上回りましたので、上記のとおり修正いたします。

(2) 個別業績

個別業績におきましては、通期を通して売上至上主義を全面的に見直し、商品ごとに採算を重視した販売価格政策により不要な値引きを抑制することなどにより、粗利率が大きく改善いたしました。また、引き続き業務効率化や事務所、倉庫の効率的運用に伴う面積圧縮などにより販売費及び一般管理費の削減にも努めて参りました。

以上の結果、上表3.の通り、売上高は前期実績を下回りましたが、経常利益及び当期純利益はいずれも前期比大幅に改善いたしました。

以 上